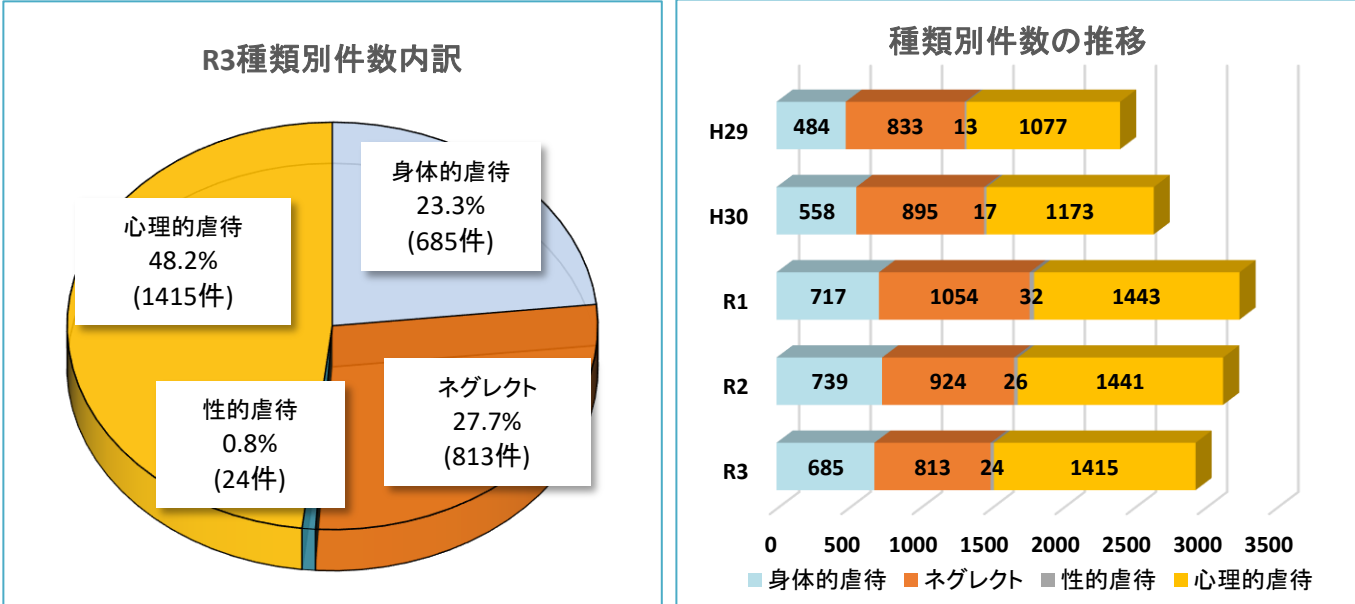
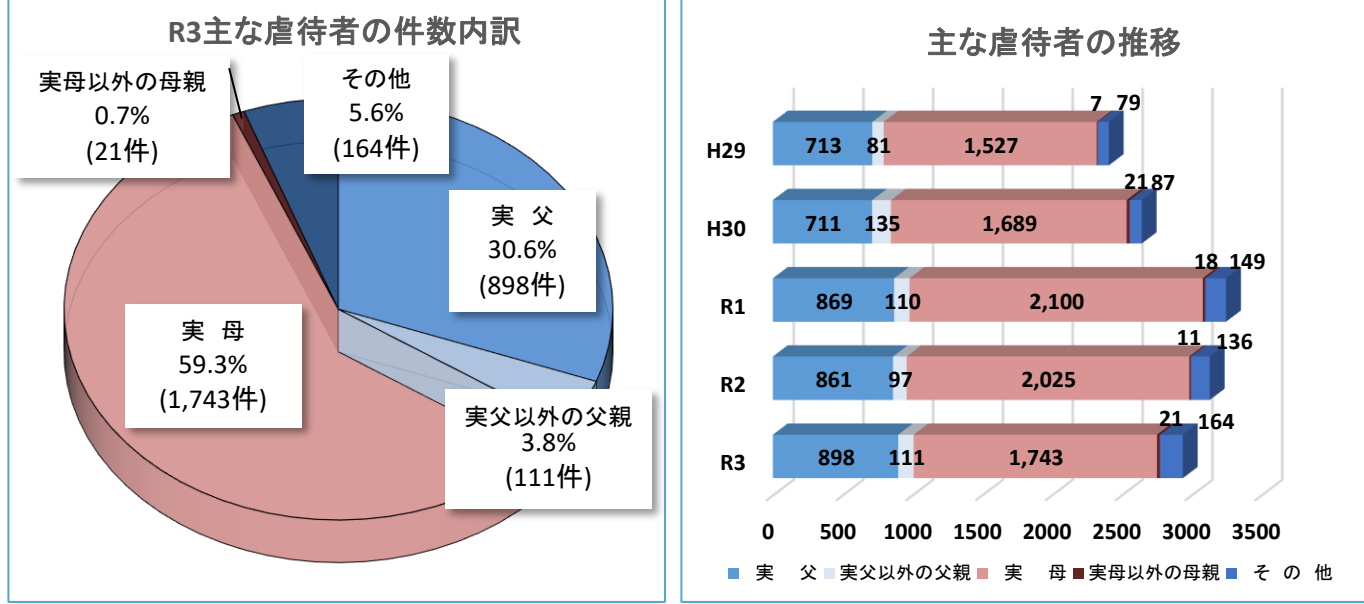


虐待の種類



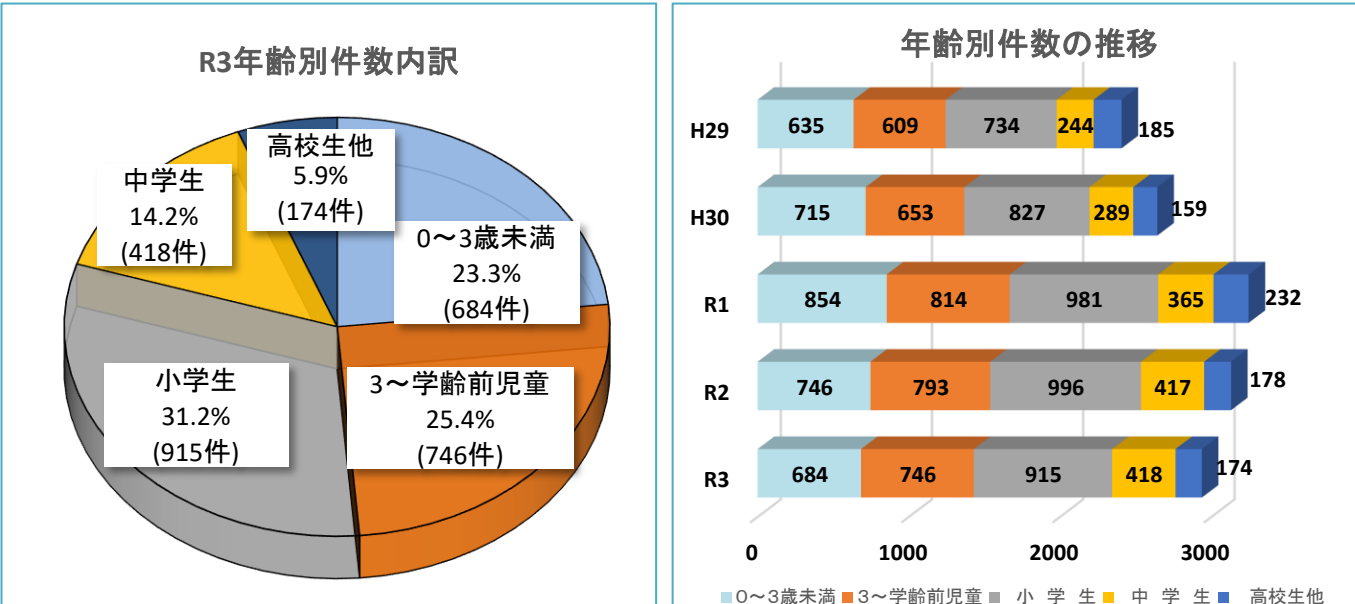
「心理的虐待」の件数が最も多く、次いで「ネグレクト」「身体的虐待」の順に多い。前年度と比べると、すべての種別で減少しており、とくに「ネグレクト」が減少（111件減・12.0%減）している。

主な虐待者



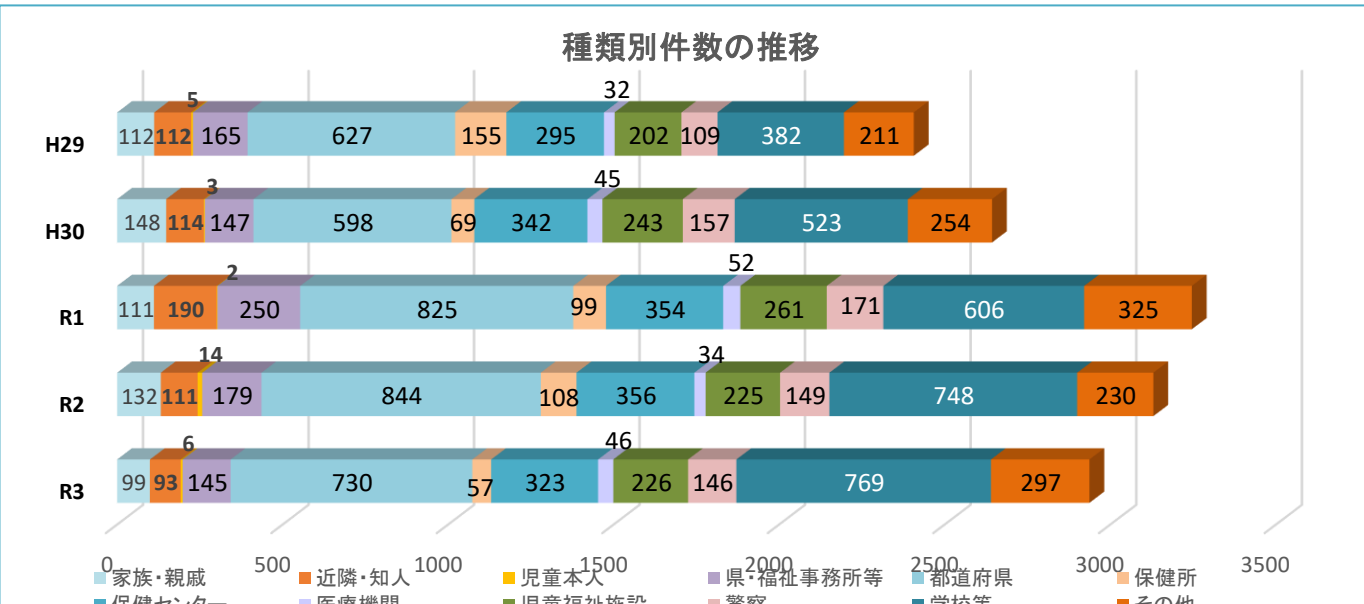
「実母」の件数が最も多く、「実父」と合わせた「実親」の件数が、全体の約9割を占めている。前年度と比べると、「実父」の件数が増加（37件増・4.3%増）し、「実母」の件数が減少（282件減・13.9%減）している。

被虐待児の年齢



「0歳～学齢前」の児童の件数が、全体の約半数を占めており、前年度と同様の傾向がみられる。中学生を除くすべての年齢で件数が減少しているが、年齢別の割合の傾向については前年度とほぼ同様である。

虐待通告の経路



「学校」からの通告件数が一番多い状況となり、次いで「都道府県」「保健センター」の順に多い。